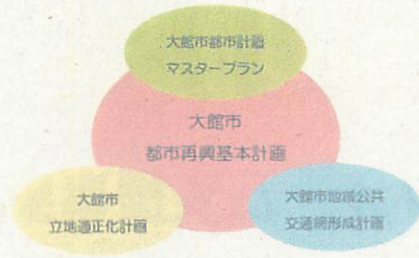


図1 大館市都市再興基本計画



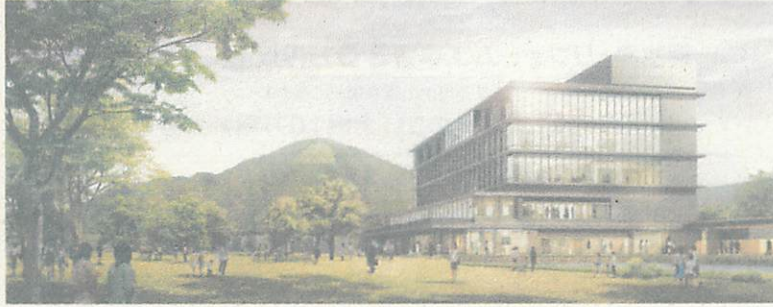
平成30年度末に大館市都市再興基本計画が策定されました。これは、大館市立地適正化計画と大館市都市計画マスタープラン、大館市地域公共交通網形成計画の3つの計画の総称で、人口減少や少子高齢化が一層進むことにより想定される様々な課題を踏まえ、まちが広がりすぎることを防ぎつつ持続可能なものとするための基本計画です(図1参照)。

大館市立地適正化計画は、将来人口を想定しながら、市全体でみた居住機能や生活を支える都市機能(商業、医療、福祉等)の配置・誘導を目標としたものですが、都市計画区域という限られた地域のみを対象としています。

2014(平成26)年8月1日に施行された改正都市再生特別措置法に基づくもので全国の都市で策定が進められています。大館市では、市全域を対象とするために大館市都市計画マスタープランも見直すことにしました。

2005(平成17)年の合併直後に検討をはじめ2007(平成19)年に策定した同計画は市の全域について検討し、コンパクトシティーの

図2 大館市新市庁舎西側完成予想図



在り方を考えました。そして、コンパクトシティーを結ぶネットワークとしての地域公共交通網形成計画と合わせて大館市都市再興基本計画としたのです。

市民ワークショップやパブリックコメント、地域説明会においても多くの市民の意見を求め、さらに検討した結果ではありますが、市議会や市民意見としてはもっと具体的な施策を盛り込み、分かりやすくまとめるべきだとのご意見もあつたようです。あくまで基本計画であり、詳細についてはこれから具体的な方策を考えながら進めていくことになりました。

かつて、人口が増えていたころ

# 大館市における「まち育て」について

は、郊外にまちを広げていきましたが、全国的に人口が減っている現状では、無秩序に広がっていくことを防ぎ、住みやすい環境を維持していくための方策が大切になってきます。また、高齢者の交通手段が増加している現代においては、通院や買い物の際に交通手段を確保するために公共交通機関の維持・確保が今後重要になってきます。

上小阿仁村では、国の施策として自動運転の実証実験が2年連続で行われましたが、まちなかで完全な自動運転が開始されるにはもう少し時間がかかりそうです。今の公共交通機関をできるだけ維持し、できればさらに使いやすくするための工夫が今後必要になってきます。これは、行政だけでなくみんなで工夫する必要があります。

大館市では、この再興基本計画と並行して、歴史まちづくりの活動や御成町南地区区画整理事業、大館駅周辺の整備、市営住宅の計画的な建て替えの他、新しい市庁舎の建設等、県や国の協力を得ながらたくさんの方の力を展開しつつ、近隣をはじめとして多くのまちともつながりをつくり、少しずつ変わろうとしていきます。各々の事業は別々ですが全てが関連して総合的に住みよいまちを考

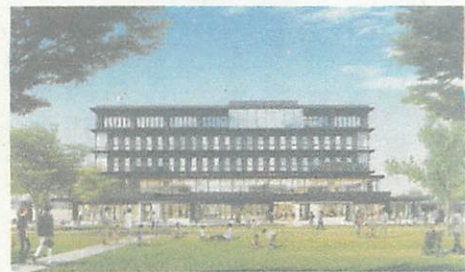


図3 大館市新市庁舎北側完成予想図



図4 大館市新市庁舎エントランスホール完成予想図

えていかなければなりません。

5年後、10年後には目に見えて変化しますが、大切なのはさらにその先です。私たちは、子供達や孫の世代のために少しでもいい環境を残す責任があります。今から工夫し、協力しなければ間に合わなくなってしまうかもしれません。みんなで知恵を出し合い意見を交わして明るい将来を残していきたいでしょう。これが今後も求められる大館市における「まち育て」につながっていきます。具体的な計画は、これからです。行政の協力も得ながら、今からみんなでやれることが沢山あります。今後も学生たちと共に協力していきたいと考えています。

※図は全大館市からの提供で、ホームページにも掲載されています。  
(http://www.city.odate.akita.jp/)

秋田職業能力開発短期大学校  
住居環境科 主幹教授

小笠原  
おがさわら

吉張  
よしはる